

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。  
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。  
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。  
 ※いずれの場合も、必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

**エントリー学校名：**鹿児島県徳之島町立神之嶺小学校

**活動名：**道徳は難しいと言わせない

教師も“自分事”として全校体制で！

**解決すべき課題：**「道徳の時間」が「特別の教科 道徳」に教科化され、授業の質的な変革が求められたのが 2 年前。各担任がそれぞれに勉強をし、試行錯誤しながら授業をしてはいるものの、「道徳は難しい」という声が数多く聞かれ、それぞれが「これでいいの？」という漠然とした不安の中にいた。そこで、自信をもって今求められている授業を展開し、確かな評価をすることができるよう全校体制で取り組んでいくこととした。

**目標・方針：**考え、議論する授業を目指して、授業の充実(視点1)を研究の中心に据え、その学びを実生活や生き方における実践意欲(視点2)につなげる手立てを講じ、評価による PDCA サイクルによって評価と指導の一体化を図る(視点3)ことを目標とした。【表1参照】

- ・ 職員一人一人が“自分事”として捉えて、職員一丸となって取り組むように各取組をデザインした。
- ・ どんな取組でも時間と労力をかければ効果は出るが、コストパフォーマンスを意識して各取組をデザインした。

**活動内容：**全体体制で道徳教育を展開していくにあたり、本校の「基本の授業展開」【図1参照】をまとめることを第一歩とした。指導過程を導入(自分の生活)→展開(教材)→終末(自分の生活)とすること、めあてに対する授業前と後の考えをもたせること、終末で道徳的価値の意味や意義を問い直すことなどを共通実践事項とした。その上で研究の視点に沿って、全校又は各学級で実践を積んできた【表1参照】。全校での取組は研修係(道徳教育推進教員を兼ねる)が提案し、全体での検討を経て実践し、途中コストパフォーマンスを踏まえながら改善を図った。一方、各学級での取組は、研究の視点を踏まえた上で、学級の実態に合った取組を各担任の創意工夫で行った。

**活動の成果：**

- 各学級の道徳科の時間割がわかる掲示物を作成し、相互参観を推進したことで、道徳科のことが職員室での話題になることが増えた。また、“見られる(見られるかもしれない)意識”により授業は洗練され、各学級での取組が他の学級に広がるきっかけにもなった。
- 実践意欲の向上に目を向け、取組を考えて実践することで、道徳科を通しての考えさせる指導や賞賛、道徳教育的視点を取り入れた学級経営が広がりを見せている。
- 評価シートの導入によって、授業後に記録の時間は要するものの、各学期1回通知表の評価においては「短い時間で、より具体的な所見が自信を持って書けるようになった」との声が聞かれた。

**アピールポイント(アイデアや工夫)：**

- 相互参観、授業構想班の新設(学期1回の研究授業を授業者と一緒に構想する班。全職員がいずれかの班に所属して授業作りを担う。)、特別支援学級担任による交流学級での授業等により、全職員が道徳科に関わり、“自分事”として捉えられるようにした。
- 課題解決のために、“よりよく、もっとよく、更によく”で取組を増やすだけでなく、コストパフォーマンスを意識して取組の効率化や簡略化、時に削減をすることで、全職員で納得した取組ができるようにした。
- 全校で実践することで、学級による学びの差が小さくなり、学年が上がるにつれて学びが積み上がっていくことが期待される。また、職員にも自然と一体感が生まれ、全員で高まるという気運がうまれつつある。

図1 基本の授業展開

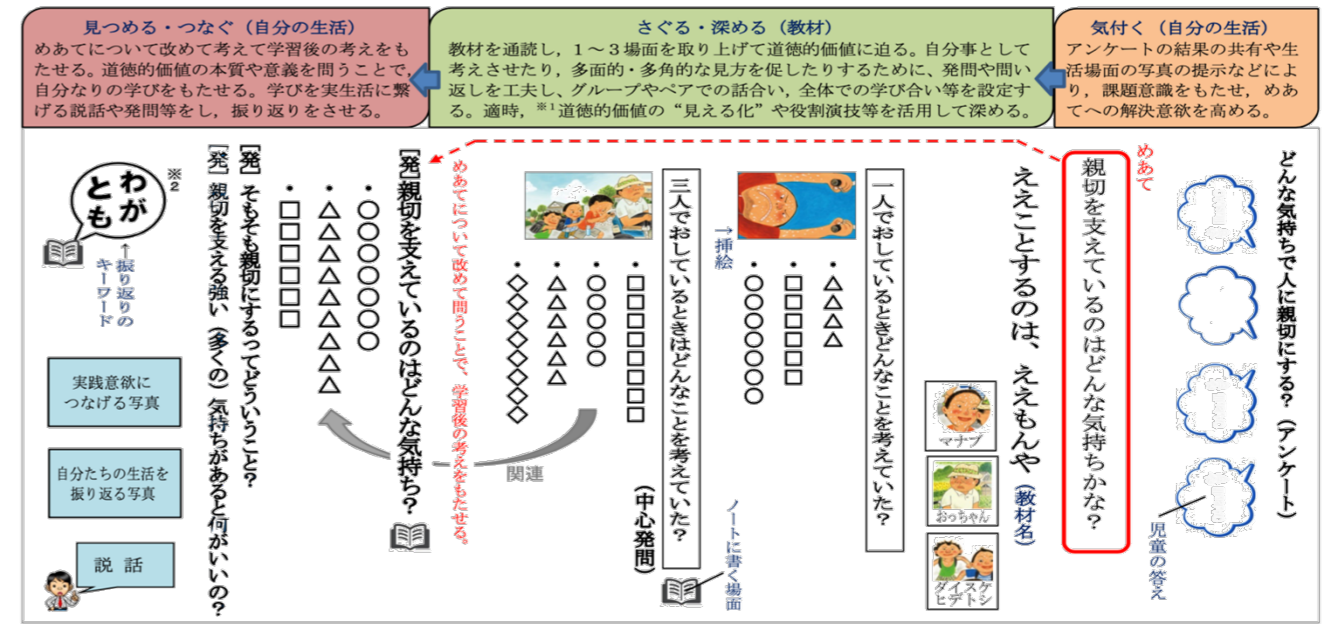
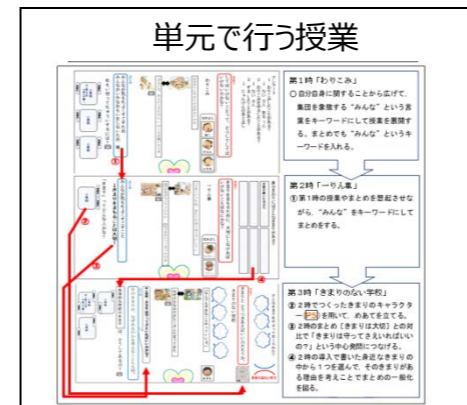


表1 研究における実践

主題	研究の視点	全校での実践	各学級での実践
考え、議論する道徳科の展開	視点1 授業の充実 考え、議論する	☆ 授業の相互参観 ☆ 単元で行う授業【写真1】 (年間指導計画への位置付け)	・ “心が見える化”ツール【写真2】 ・ “吹き出し”アンケート ・ 役割演技 ・ ねらいに迫る発問と問い返し ・ “道徳の大切”(道徳開きで配付)
	視点2 向上 実践意欲の	☆ “とくとの木”【写真3】 ☆ 道徳コーナー(教室掲示)	・ 道徳日記 ・ 道徳通信 ・ ゲストティーチャー ・ 道徳的価値のキャラクター化
	視点3 指導と評価 の一体化	☆ 評価シート (多面的・多角的な見方と自分事で考えるの2視点で見取る)	・ 特別支援学級担任による授業 ・ 実態に合わせた評価シート

写真1



道徳科 2～3 時間を一単元として、テーマを設定し、相互に関連させることで、継続的な深い学びが期待できる。

写真2

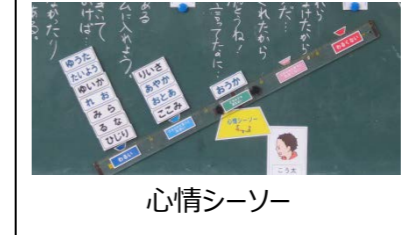


写真3



子供たちが友達のいいところや授業で学んだこと、これからは生かしていきたいこと等を書いて掲示する。基準日を設けて月1回のペースで貼り替える。